

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立嬉野高等学校
1 前年度 評価結果の概要	新嬉野高校は塩田校舎と嬉野校舎からなる校舎制の長所を活かして、地域に期待され活気に満ちた唯一無二の学校づくりが求められる。両校舎ともに今までの成果が十分みられるが、さらに両校舎の教職員の連携を深め、協力体制を整えることで、それぞれの課題を克服していかなければならない。
2 学校教育目標	校訓である「躍動」「錬磨」「敬愛」の精神のもと、それぞれの専門学習領域の強みを活かした教育活動を総合的に展開し、これからの社会で生き抜くために必要な学ぶ力と敬う心を育み、志をもって社会に貢献できる広い視野と専門性を持った産業人を育成する唯一無二の学校づくりを目指す。
3 本年度の重点目標	1 進路目標の早期確立を図り、生徒全員の進路実現を目指す。 2 専門的知識・技能を習得させ、将来のスペシャリストたる生徒を育成する。 3 わかる授業、力がつく授業を実践し、教材研究や指導の工夫・改善を行い、確かな学力の定着を目指す。 4 基本的生活習慣の確立と共に、敬愛の心を育み、調和のとれた生徒を育成する。 5 「校舎制による円滑な学校運営」については、様々な取り組みを通して「独自性」と「一体感」の両面をアピールしながら円滑な学校運営を図り、地域の期待に応えられる開かれた学校をつくる。

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎学力の向上 ○「わかる授業」の実施	○家庭学習時間の調査を行い、毎日の家庭学習の充実を目指す。 ○生徒アンケートにより、わかる授業実施率を80%以上を目指す。 ○小テスト(10点満点)を年間を通して実施し、クラス平均点が7点以上 80%を目指す。 ○Formsを利用した授業アンケートにより、わかる授業実施率80%以上を目指す。	・定期的な家庭生活の記録調査を実施する。 ・わかる授業の実践のため、教師の日々の授業の工夫・改善に努める。 ・小テスト前に事前課題を準備し、生徒の自宅学習を行う時間の確保をはかる。 ・わかる授業の実践のため、Formsを利用したアンケートをもとに教師の日々の授業の工夫・改善に努める。	A	(塩田校舎)・Formsを利用した授業アンケートでは「説明が丁寧で分かりやすい授業」88%、「役に立ち、力がつく授業」87%、「めあてが示され興味・関心を抱かせる内容の授業」85%といずれも目標値を超えることができた。 ・小テストの全学年平均点は国語8.0点、数学で7.2点であった。自宅での事前学習課題が徐々に定着しつつあると考えられる。 (嬉野校舎)・継続して学習時間調査を行い、定期考査前2週間の1日の平均学習時間は、1学期と比較して、89%の生徒が増加した。全体の平均で1日あたり1.4時間増、最も多い生徒は4.4時間増。【1年生】・継続して毎回の小テストで事前・事後課題及び指導を行い、必要な生徒には個別に指導を行った。小テスト(国英)21回の平均得点率は、84%であった。【1年生】・主に就職試験に向けた基礎学力向上のための問題集に週末課題として取り組むことができた。【2年生】・1月に実施した授業アンケートでは、わかる授業実施率95%という結果であった。授業中も一人ひとりの学習活動を見て回りアドバイスができていた。【3年生】	A	・アンケート活用による授業の継続改善をお願いしたい。 ・資格取得目標値が大幅にアップしており素晴らしい。ただし、数値目標の立て方が妥当だったかの検証が必要である。
	◎探究心の向上	○専門的教科で資格指導を行い、昨年度合格の10%アップを目指す。	・各専門教科で積極的に資格指導に努める。 ・昨年度を振り返り、教科で課題を共有し、指導を行う。	A	(塩田校舎)・技能士、電気工事士、測量士補などの資格取得に繋げることができた。 ・昨年度の合格者数に対して機械保全技能士が46%アップ、第一種電気工事士が70%アップ、測量士補は0名合格から3名合格とそれぞれ大幅に合格者数を増やした。 (嬉野校舎)・授業の工夫と放課後指導により昨年以上の資格向上ができた。全商協会主催検定1級3種目合格者2名、5種目合格者1名 ・資格取得のための補講や自宅学習に取り組ませることができた。その結果、よい成績を残すことができた。	A	・資格取得についての呼びかけや、放課後指導の継続をお願いしたい。
	○ICT機器を活用した授業の実施	○電子黒板、学習用パソコンの教育活動内での利用率70%以上を目指す。	・校内研修を通し、全職員の取り組みを共有する。 ・災害、感染症対応に備え、リモート授業の実践に取り組む。	A	(塩田校舎)・各学期ごとに校内研修を実施し、多くの職員がTeamsの活用を行い周知が図れた。 ・各教室にオンライン授業用の機器を設置し、コロナ感染症が拡大した折にも授業を配信することができた。 (嬉野校舎)・選択科目ごとのチームを作成し、オンライン授業を実施することができた。 ・授業中のICT機器利用率は80%を超えている。調べ学習・発表活動・意見の比較提示など幅広い活用がみられた。	A	・今後もICT活用をお願いしたい。
	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教員90%以上を目指す。	・人権・同和教育講演会を実施する。 ・「情報」「LHR」において情報モラル教育、進路保障・人権教育を実施する。	A	(塩田校舎)・人権・同教育講演会を実施し、異文化理解とは他国の文化を知るだけでなく人権を尊重していくことであることを確認した。 ・人権学習LHRでは1年生では「スマートフォン・ネットでのいじめについて」、2年生では「インターネットと人権について」学習し、情報化社会の中において、誰もが安心して生活できるクラス・学校・地域社会を作るためのモラルについて確認した。 (嬉野校舎)・人権同和教育担当者、生徒支援教員による校内職員研修を3回実施し、職員の人権意識向上を図ることができた。 ・生徒に対しては、情報モラル教育、性教育、HIV及びエイズ感染者への人権問題、異文化理解など多岐にわたる項目で授業や講演会を実施し、生徒自らの人権感覚を磨くことができた。	A	・引き続き、人権教育の継続をお願いしたい。

●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上を目指す。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応等についての研修・会議を年間に3回以上行う。	A	(塩田校舎)・生徒指導部と保健環境部で連携し様子の気になる生徒をカウンセリングへつなげることができた。 ・5月にスクールカウンセラーによるSOSの出し方教育講話を実施した。 ・学期ごとに教育相談便りを発行したり、学校HPに掲載するなど心の相談窓口の周知を行った。 (嬉野校舎)・アンケート(3回実施)や日常の観察により、5件のいじめ事案を認知。校内いじめ対策委員会を中心に組織的な対応を行い解消することができた。 ・職員研修にて、いじめの定義や防止のための取組、いじめ重大事案に関する対応の確認を行うことができた。	A	・生徒の不登校についても継続して対応してほしい。 ・いじめ事案について、対策が迅速に行われており、リスクマネジメントができていると感じる。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒90%以上を目指す。	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。	A	(塩田校舎)・「さがを誇りに思う教育推進事業」講演会を全学年対象に実施した。講演終了後は一人一台端末を利用してアンケートを行い、私たちが住んでいる地域の良いところを再確認できたと思われる。 (嬉野校舎)・授業で「さが語り」の内容や、佐賀の歴史や自然にまつわる学習を取り入れることができた。 ・3年生を対象に「さがを誇りに思う教育推進事業」講演会を実施し、実施後のアンケートでは「郷土の価値を再認識することができた」の割合が90%を超えることができた。	A	・佐賀での就職の魅力などを伝えてほしい。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上を目指す。 ○朝食をとって登校する生徒90%以上を目指す。	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりを年間10回以上発行する。 ・健康診断結果に基づく早期治療の指導を徹底させる。	A	(塩田校舎)・食育だよりの発行ができ、ヘルスマイト指導員による食育実習を行うことができた。また、地域の郷土料理についても知識を深めることができた。 ・保健だよりについては保健主事の一言記事を毎回入れることができた。また、紙媒体だけでなくHPでもpdfで発信をすることができた。 (嬉野校舎)・食に関する意識調査を6月と11月に実施した。 ・保健だよりを年間12回発行し、時期や生徒の状況に応じた内容を掲載することができた。 ・健康診断の結果を受けて、治療の必要がある生徒には個別で保健指導をするなど、早期治療の指導を行うことができた。	A	・食育等については、保健指導の中でも継続した指導をお願いしたい。
	○健康の保持増進のため体力向上	○健康・体づくり推進プランを実行して、健康保持増進、体力の向上を目指す。 ○新体力テストで各個人が5%得点アップにつなげるために、体づくり運動を毎学期取り入れる。	・新体力テスト実施する。 ・塩田校舎は85%、嬉野校舎は75%以上の部活動加入率を目指す。	A	(塩田校舎)・新体力テストの結果を生徒にフィードバックし、個授業冒頭の補強運動を行い、記録の改善を図った。また、マラソン大会の練習や本番での取り組みで持久力を高めた。 ・塩田校舎の部活動加入率は87.9%で目標を達成することができた。 (嬉野校舎)・新体力テストの結果を踏まえて、体育の授業でのウォーミングアップや12月の校内マラソン大会の実施によって、生徒の体力維持・向上を図ることができた。 ・嬉野校舎の部活動加入率は兼部を含めて80%である。休部中の女子卓球部、女子バスケ部の来年度募集は、年度初めに実施し、部員確保に努めていきたい。	A	・今後も生徒の体力維持・向上を図っていただきたい。また、部活動についても生徒が充実した高校生活が送れるように努めていただきたい。

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 (1か月につき45時間、1年につき360時間)	・定時退勤日+1を設定する。 ・学校閉庁日の設定。 ・部活動休養日の設定。	A	(塩田校舎)一部ではあったが会議の書面開催を取り入れるなど業務の効率化を推進した。また、各部活動における複数顧問による指導の分担を図り、時間外勤務時間を削減できた。 ・時間外在校等時間の上限(1か月につき45時間、1年につき360時間)についてはほぼ全職員が遵守できた。 (嬉野校舎)職員の時間外在校時間は以前に比べると短くなり健康障害防止について意識の向上が見られた。 ・部活動休養日の設定については、部活動ごと適切に設定できた。 一部会議の書面開催や、会議の時間をできるだけ短縮して実施するなど工夫した。	A	・定時退勤日の更なる推進や夏季休暇等の取得が100%になるように教員の十分な休暇取得への取り組みを強化していただきたい。
	○学校行事の精選と効率的運営	○講演会等の行事の精選を行う。 ○両校舎で実施する行事の検討を行う。	・合同開催できる行事を3つ以上実施する。 (開校記念行事、文化祭、3学期クラスマッチなど) ・事前に担当で行事の打ち合わせを行い、計画的に実施できる連携する。	A	(塩田校舎)今年度初めて開催した両校舎合同の文化祭は両校舎生徒会が主に企画・運営し、文化祭終了後も是非来年度も開催を要望する声が多かった。 ・学校企画会議をとおして来年度年間行事の綿密な打合せができた。 (嬉野校舎)両校舎参加の合同企画会議を実施したことで、次年度の合同行事のすみ分けができている。合同行事の際は、合同職員会議等を設け、どちらか一方に負担がありすぎないような実施を目指したい。	A	・PTA、評議委員会の開催時間や書面開催の等の検討をお願いしたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○進路実現100%	○生徒の希望進路への実現	○キャリア教育の充実のための校外研修を行う。	・外部からの専門技術者を講師として招聘する。 ・学校外での就労体験(インターンシップ等)の推進を行う。	A	(塩田校舎)生徒の希望進路実現に向けて指導を行った結果就職内定100%、進学についても希望する4年制大学・専門学校に合格することが出来た。 (嬉野校舎)若干名の進路変更はあったが生徒の進路実現100%が達成できた。進学のオープンキャンパスに参加や就職においては、応募前見学に参加できたことがとても良かったといえる。(ミスマッチの予防対策になった) 1・2年生においても、校内や外部への進路ガイダンス等に参加し、進路意識の向上ができた。	A	・生徒の希望進路実現に向けて支援をお願いしたい。
○身だしなみ指導とマナーアップ	○社会人として必要な身だしなみ指導推進	○すべての授業、教育活動で身だしなみ・挨拶指導を実践する。	・登校時の挨拶・身だしなみ指導を毎日行う。(塩田校舎) ・朝の挨拶指導を定期的に行う。(嬉野校舎) ・授業前に身だしなみチェックを行う。 ・挨拶指導を推奨する。	A	(塩田校舎)登校時の挨拶運動、身だしなみ指導、交通指導、自転車施設指導を継続して実施することにより、生徒自ら挨拶ができるようになった。 ・定期的な身だしなみ指導においては、指導を受ける生徒が減少し、自主的に考えて行動できる生徒が増えた。 (嬉野校舎)朝の挨拶指導は計画通り実施できた。挨拶指導は継続して行う必要がある。 ・身だしなみ指導については、校則について職員間の共通認識を図る必要がある。また、現在生徒会を中心に校則の見直しを進めているところがある。	A	・校則の見直しや定期的な身だしなみ指導の継続的対応をお願いしたい。 ・挨拶運動等の甲斐あって、横断歩道を渡る高齢者を手助けするなどの行動がとれる生徒が現れており、生徒の心に道徳心が根付いたのだと思う。
○校舎制による円滑な学校運営	○各校舎間の連携	○分掌業務や部活動等で、連携がとれたと回答する職員85%以上を目指す。	・合同会議やワーキンググループにより、職員間で合意形成・共通理解を図る。 ・学校行事や部活動など両校舎の一体感を醸成する活動を合同で行う。	B	(塩田校舎)修学旅行準備や高校入試業務等、協働して行うことができた。 ・今年度は文化祭を合同で実施し、生徒・保護者・職員とも概ね満足との評価であった。今後、学校企画会議を充実させ、さらなる校舎間連携のため、職員の意識改革、両校舎合同の協議、取り組みを実施していく。 (嬉野校舎)開校記念行事や文化祭、修学旅行、クラスマッチ、高校入試業務など両校舎合同で実施する行事等を見直すことができた。校舎間の連携を充実させるためには両校舎職員が参加する学校企画会議や研修等を増やし職員の意識改革を図るとともにお互いに協議する機会を設ける必要がある。	A	・学校行事を両校舎合同で行うという試みの中、文化祭を初めて合同開催したことは評価に値する。今後さらに職員間の合意形成と共通理解を図ることのできる取り組みを推進してほしい。
○魅力と活力ある高校づくり	○両校舎の生徒が享受できる教育サービスの均一化を図る。 ○生徒の安心安全を確保する。	○本年度については、PTA総会の参加率は委任状を含め、80%以上を目指す。 ○両校舎のPTA一本化を行う。 ○メール配信サービスの導入を行い、保護者と学校が迅速に連絡をとれるようにする。	・授業参観を含め学校での活動を広報し、参加を促す。 ・両校舎活動内容のすり合わせを行い、令和5年度総会で承認、一本化しての実施をめざす。 ・「eメッセージ」を導入する。	A	(塩田校舎)体育祭前に校内環境整備を行った。 ・マラソン大会では、生徒たちを応援し、ゴール前でねぎらいのお弁当を手渡した。 ・PTA新聞「かわらばん」では、PTAの活動を紹介した。 ・PTA新聞「観瀾亭」では、卒業する子どもたちに向けての保護者の思いを記事にし、愛情をあらわすものとなった。 ・PTAの一本化については、3回の役員会を行い、最終調整を行った。次年度の役員会、評議員会で承認を受けPTA総会にて議決を踏む予定。 (嬉野校舎)PTA総会の書面開催など、若干の活動制限はあったものの、徐々に活動を再開できるようになった。 ・「eメッセージ」の導入により、学校と保護者の連絡が迅速かつ確実に行われるようになり、両者の連携を振りやすくなった。 ・PTA新聞により、学校や生徒の様子、PTA活動を広報することができた。	A	・時間がかかる問題だと思うが教職員の意識の持ちようや情報共有することで、良い方向に進めていただきたい。
	★◎SAGASマート・ラーニング(県指定)に取り組む。	○地域との連携事業を各学年、系列で実施する。	・各学年、系列担当で今までの取り組みを見直し、継続発展させる。 ・地域との連携、新規の取り組みにつながる事業を検討する。	A	(塩田校舎) ・地域との共同開催イベントにてロボット操作体験会を出店し、子供たちに操作してもらうことで工業に関する興味関心を持ってもらうことができた。 (嬉野校舎) ・各学年、系列ともに計画通り活動することができた。学校魅力強化委員会を3回、イベント実行委員会を5回実施した。 ・10月には嬉野温泉商店街と一緒にイベントを開催した。JRウォーキングとも同時開催し約800人の地元の方や観光客をもてなすことができた。	A	・継続して地域のイベント参加をお願いしたい。 ・地域との連携事業は積極的に取り組まれているように感じる。新幹線開業もあり、そこへのアプローチも積極的であった。市民目線で見ても、地域の高等学校としての存在感を感じる事ができた。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の利活用を視野に入れた、わかる授業を継続的に実施し、基礎学力や探究心の向上を図る。</li> <li>安心安全な学校生活の維持のため、心の教育に力を入れるとともに、生徒の心と体の健康保持増進のための自己管理能力を育成する。</li> <li>校則の見直しや校舎制による円滑な学校運営を推し進め、教職員の業務改善・働き方改革の推進を図る。</li> </ul>
----------------	---